

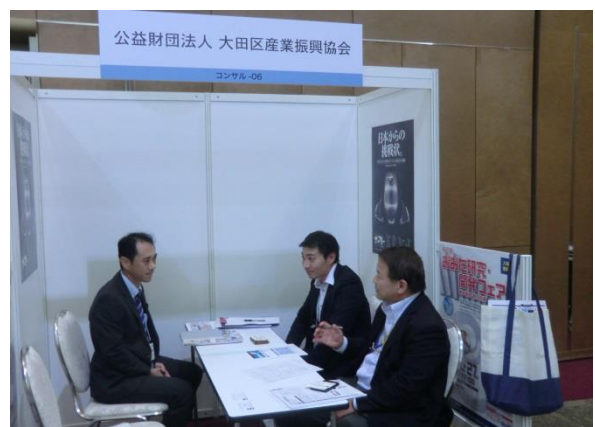
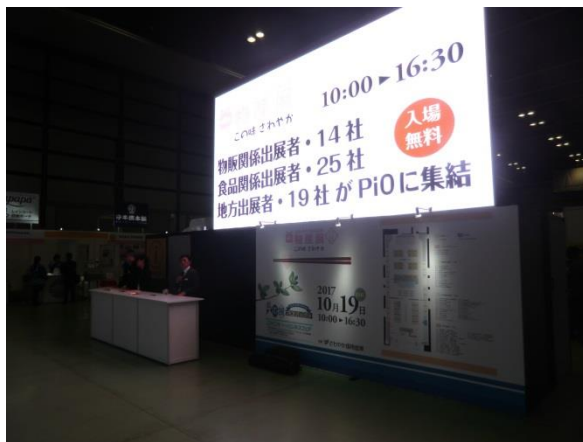
業務報告書



「第13回フェビジネスフェア」 参加報告書

さわやか信用金庫が主催する本ビジネスフェアは、お客様の発展を応援する「とことん応援プロジェクト～ひろがる つながる 一歩先の出会い～」の一環として開催され、今年で第13回目を迎えた。今回は、お客様同士が出会う商談会に特化し、商談をきっかけに地域の皆様のビジネスに貢献することを目的としている。また、会場1階大展示ホールでは地元で有名な独自の商品（惣菜・和洋菓子・飲料・生鮮食品・工芸品など）を取扱う企業が参加、販売を行う「第8回さわやか信用金庫 物産展」も併催された。当協会は、大田区産業プラザ（PiO）4階コンベンションホールのビジネスフェア商談会へ参加等、報告する。

会場風景



業務報告書

1 第13回ビジネスフェア概要

会 期：2017年10月19日（木）10:00～16:30

会 場：大田区産業プラザ（P i O）4階コンベンションホール

主 催：さわやか信用金庫

出展者数：ビジネスフェア 44 ブース（145 商談）、物産展 63 ブース
（2016 年ビジネスフェア 48 ブース、物産展は 45 ブース）

来場者数：約 1,200 名（2016 年約 3,000 名）

	10月19日(木)
来場者数	約 1,200 名

* 出展者数・来場者数は主催者事務局より

* 大雨の影響により来場者数大幅減少

2 区内企業の参加状況

今回、本ビジネスフェア（物産展含む）には、当協会含め 26 社の区内企業が参加していた。26 社の中で、特に物販、食品関係エリアに 15 社が集まっていた。

3 大田区産業振興協会ブースの成果

	10月19日（木）	
	名刺数	相談件数
大田区産業 振興協会	8 枚	3 件

4 所見

本ビジネスフェアは、今回で 13 回目となる。第 8 回さわやか信用金庫 物産展と併催され、主催者であるさわやか金庫の一大イベントである。本年度は、大雨の影響により約 1,200 名と来場者が大幅に減少した。

昨年度までは展示会形式であったが、今年度より従来の展示ブースを廃し、より高い成約に繋がることを重視して一般来場者の参加は受付しない完全事前予約制の商談会形式となった。

昨年と比べビジネスフェアの参加企業は 4 社減り、物産展は 14 社が増加していた。ビジネスブースへの参加企業が減少しており物産展メインの展示会となりつつある。当協会の商談会ブースは、事前商談件数は 3 件と低調であった。

しかしながら、主催者の 13 回目を迎え、現状維持からの打開策としてビジネスの内容をより濃くするために商談会形式でのビジネスマッチングの場を提供し、地域金融機関として販路拡大の支援や課題解決に向けた取り組みにより地域を活性化させていくという強い使命感が伝わる内容であった。

以上

業務報告書



信用金庫による地方創生！日本を明るく元気に！！

2017 “よい仕事おこし”フェア

「2017 “よい仕事おこし” フェア」

出展報告書

本展示会は、東日本大震災後の2012年より「東北・熊本復興応援」と「地方創生」をメインテーマとして開催され、今年で第6回目を迎えた。城南信用金庫が主催し、全国47都道府県の信用金庫の取引先企業をはじめ、行政機関、教育機関等、社会福祉等の各層の方々を一堂に会し“つながり”や“絆”を結ぶ機会をご提供して、結びつきや助け合いの中から、経済の活力を取り戻すための新たな“よい仕事おこし”を実現し、日本を明るく元気にすることを目指している。当協会は、ふるさと「にっぽん」観光エリアの行政関連コーナーにブース出展した。

会場風景



業務報告書

「地方創生」ステージイベントに松原区長出演



大田区ゆるキャラ「はねびよん」



下町ボスレーの展示・寄付金の授与



(公財) 大田区産業振興協会ブース



1 展示会概要

会 期：2017年8月22日(火)～23日(水) 10:00～18:00 (23日は16:00)

会 場：東京国際フォーラム

主 催：城南信用金庫

出展者数：433 ブース (2016年 381 ブース 2015年 375 ブース 2014年 352 ブース)

*バイヤー、特産品販売、飲食店ブース含む

来場者数：約 41,000 名 (2016年 37,570 名 2015年 29,423 名 2014年 40,764 名)

	8月22日(火)	8月23日(水)	合計
来場者数	約 22,500 名	約 18,500 名	約 41,000 名

*出展者数・来場者数は主催者事務局より

2 区内企業の出展状況

今回、本展示会には、当協会および商談会のバイヤーで参加していた(株)JALUX エアポートを含め50社の区内企業が参加していた。50社の中で、特に機械・金属・電子製造エリア、加工技術エリアに27社が集まっており、両エリアで区内出展企業が5割以上を占め、大田区の町工場の技術力こそが日本のものづくり産業を支えているという区内企業の底力を実感した。

業務報告書

3 大田区産業振興協会ブースの成果

	8月22日（火）		8月23日（水）		合計	
	名刺数	相談件数	名刺数	相談件数	名刺数	相談件数
大田区産業 振興協会	66 枚	6 件	21 枚	3 件	87 枚	9 件

4 所見

本展示会は、今回で6回目となる。前年は37,570名の来場者があった主催者である城南信用金庫の一大イベントであり、本年度は、2日間で約41,000名が来場され、過去最高の集客となり会場内は連日来場者で賑わっていた。会期中は地下2Fに「下町ボブスレー」の展示コーナーが設置された。

当協会ブースは、地下1Fのふるさと「にっぽん」観光エリアの行政関連コーナーに配置されており、メイン会場である地下2Fのビジネスエリアと比べ、来訪者は観光エリアに立ち寄った一般客が圧倒的に多かった。また、同業者との情報交換や、出展者、来訪者からの売り込みが多く、将来的に成果の期待できる具体的案件は2日間で9件と他の展示会に劣る結果となった。

来年度以降の方向性として、城南信用金庫の取引先である一般客が多く参加する展示会であることを踏まえ、出展内容をものづくり（製品や技術）PRに限定することなく、「おおた商い・観光展」、「OTA！いちおしグルメ」、「大田のお土産100選」等の商い・サービス産業を含めた情報発信も必要であると考えます。そこで、大田区産業全般の紹介という大田区の魅力や区内商業サービス事業者の商品・サービスの良さ、取引・販売の促進をPRすることで、区内外からの来訪者の誘客促進という観点も加えたブース出展を考えていきたい。

以上

業務報告書



「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2017」出展 報告書

本展示会は北海道内外の優れた技術を有する中小企業を中心に食品加工機械、環境・エネルギー、金属機械、自動車、電気・電子、ITソフトウェア、産学官金連携、産業交流など様々な分野の企業・団体が出展する展示会である。主催者である北洋銀行が創立100周年を迎える今年は、新たな試みとして遠隔TV商談会も実施された。

協会は同行とは平成26年7月に「連携・協力に関する協定」の締結をしており、平成24年から6年連続（大田区企業が参加するようになってからは5年連続）の出展となった。今年は、当協会ブースとともに公募出展企業9社の計10小間で出展し、また遠隔TV商談会には3社が参加した。

1 展示会概要

会 期：平成29年7月20日（木）10:00～17:00

会 場：アクセスサッポロ（札幌市白石区流通センター4丁目）

主 催：北洋銀行

後 援：経済産業省北海道経済産業局、北海道、札幌市、（一社）北海道機械工業会、北海道経済連合会、（一社）北海道商工会議所連合会、（一社）北海道中小企業家同友会、札幌 商工会議所、（独）中小企業基盤整備機構 北海道本部、国立研究開発法人、産業技術総合研究所北海道センター、（地独）北海道立総合研究機構、（一社）北海道発明協会、（公財）北海道中小企業総合支援センター（公財）北海道科学技術総合振興センター、北海道自動車産業集積促進協議会、札幌証券取引所、（一財）省エネルギーセンター 北海道支部、（公財）北海道環境財団、（一財）さっぽろ産業振興財団、EMS-JP 北海道支部、（株）北海道二十一世紀総合研究所、国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所、旭川商工会議所、（公財）函館地域産業振興財団、（公財）大田区産業振興協会

出展者数：220社・団体（うち北海道外出展者数 34）

来場者数：約4,800名（2016年4,800名、2015年4,400名 2014年4,200名）



入口付近



開会式

業務報告書

2 大田区出展企業の出展

HP での募集前の告知や各展示会で積極的にチラシを配布するなど、新規出展企業の発掘を積極的行った結果 9 社が集まり、うち 3 社が新規出展企業となった。また出展料は 64,800 円として勧誘を行っていたが、最終的に北洋銀行のご尽力により出展料金が無料となった。これは、北洋銀行が厚生労働省に申請した補助金があり、道外企業のみが無料となったためだが、再来年度（平成 31 年度）以降はこの補助金の制度自体がなくなるとのことで、有料となる可能性がある。また値上げの可能性もあるとのことである。

4 遠隔 TV 商談会について

今回初の試みとして、会場の出展者（北海道企業のみ）と場外（大田区、青森、静岡、愛知）をスカイプで結び、タブレット端末を使用して行う遠隔 TV 商談会が実施された。必要な機材は主催者が準備、協会は場所（5 階会議室）を提供した。大田区からは 3 社が参加し、8 商談が行われた。

5 大田区産業振興協会コーディネーター案件

名刺交換枚数：33 枚

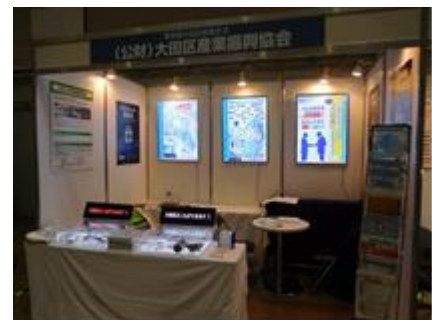
案件総計：5 件（主催者によるマッチングを含む）

○3 件 △0 件 ×2 件

○（見積書授受、発注見込、開発化検討）

△（次回テーマを具体化し商談継続、図面待ち、対応先選定中）

×（アンマッチ見込み薄い）



6 担当者所見

大田区企業からの出展者は 9 社（3 社は初出展）で、出展者からは、「本展示商談会では具体的な案件はなかったものの潜在的な顧客との出会いがあった」、「道内進出の足掛かりとなる現地の工具商社数社と話すことができた」等の反響があった。『北海道には最先端あるいは特殊な技術を持っている企業はほとんどないため大田区企業が持つ技術へのニーズが見込める』と考えられており、実際に過去の出展においては引き合いがあり、いわゆるものづくりが活発な地域とは産業構造の違いなど独特な要因があると思われる。

全体的には、過去 4 回の出展と比較して「商談件数」や「可能性の高い案件数」など、「数」という面ではさほど差はないが、出展目的に対する達成度についての質問では「やや不満」と「不満」に○をつけた企業もあった（これまでは「普通」以上の評価のみであった）。ブースに足を止める来場者数や層が期待と異なっていたことが要因のようである。今回の成果は企業によって差があるが、どの企業も北海道市場の開拓を課題としつつ実際には取り組めていないのが現状で、このような機会は貴重だと考えている点では共通している。

業務報告書

本展示会は、募集は協会が取りまとめているものの、出展費用については参加企業の自己負担としており補助金の手当てはない（今回は出展費用が主催者側から無料とさせていただいたが、有料の場合も協会からの補助金の手当てはない）。主催者による値上げも検討されているところ、平成31年度以降はどう関与していくか、検討が必要である。

以上

業務報告書

日本 ものづくり ワールド 2017 内

第
21
回

機械要素技術展

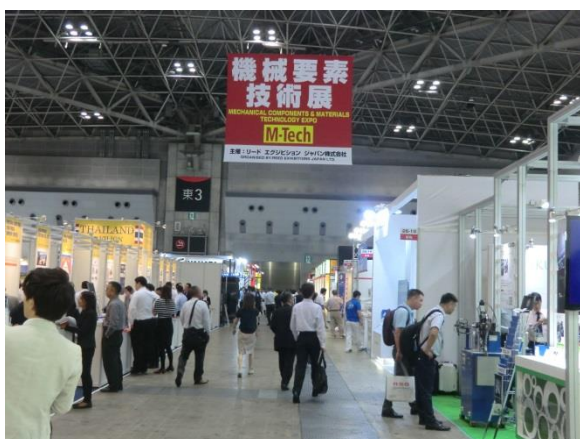
エムテック
M-Tech

「第 21 回機械要素技術展」

出展報告書

本展示会は、軸受、ベアリング、ねじ、ばねなどの機械要素や、金属、樹脂に関する加工技術を一堂に集めた日本最大規模（面積・出展者数）の専門技術展あり、毎年、設計・開発・製造・生産技術部門を中心とした製造業ユーザーが多数出展し、出展企業と商談を行っている。また、本展示会に加えて「第 28 回設計・製造ソリューション展」、「第 8 回医療機器 開発・製造展」、「第 25 回 3D&バーチャル リアリティ展」が同時開催された。

会場風景



業務報告書

1 展示会概要

会 期：2017年6月21日（水）～23日（金）10:00～18:00

会 場：東京ビッグサイト 東ホール

主 催：リード エグジビション ジャパン(株)

同時開催：総称「日本ものづくりワールド 2017」

第28回設計・製造ソリューション展、第8回医療機器 開発・製造展

第25回3D&バーチャル リアリティ展

出展者数：約2,454社(2016年2,318社 2015年2,253社 2014年約2,102社)

来場者数：名88,554(2016年87,285名 2015年81,469名 2014年80,606名)

*併催を含む

	6月22日(水)	6月23日(木)	6月24日(金)	合計
来場者数	24,055名	29,574名	34,925名	88,554名

3 大田区産業振興協会ブースの成果

	6月21日(水)		6月22日(木)		6月23日(金)		合計	
	名刺数	相談件数	名刺数	相談件数	名刺数	相談件数	名刺数	相談件数
大田区産業 振興協会	43枚	25件	60枚	36件	54枚	30件	157枚	91件

4 所見

本展示会は、今回で21回となる。前年は約87,000名の来場者があった国内有数の展示会であり、本年度は、3日間で88,554名が来場され、過去最高の集客力となった。

軸受、ベアリング、ねじ、ばねなどの機械要素や、金属、樹脂に関する加工技術を一堂に集めた日本最大規模（面積・出展者数）の専門技術展だけあり、連日どのブースも来場者で賑わっていた。また、全国の自治体の出展が回を重ねるごとに増加しており今年度は95の団体が出展した。

当協会ブースの来場者の声は、「大田区も自治体ブースに出展しているかと思ったが、単独で出展してくれて相談に乗ってもらえて良かった」や「加工で困っているがどこに相談しても解決ができず大田区企業なら何とかしてくれると思い今日は図面を持ってきた」や「外注先が廃業してしまい加工のできる企業を紹介して欲しい」という区内企業への技術を求めるものが多かった。本展示会は、自治体ブースが増え主催者のテーマにそぐわない展示会となってきているという認識がある一方で、来場した大手メーカーや研究開発部員、技術者、営業マン、産業振興センター等の方々より金属加工を中心とした相談案件が多く、区内企業への発注の期待が高まる。

来場者の声の代表である「大田区企業なら何とかしてくれるだろう」これこそが、本展示会に出展を重ね大田区がものづくり産業としてのブランドがしっかりと定着している証である。そこで、この期待の声に応え、区内企業への販路拡大・市場開拓を図るべく、当協会のブースは相談窓口として重要な役割を果たしており、次年度も引き続き出展する価値は高いと思われる。

以上

業務報告書



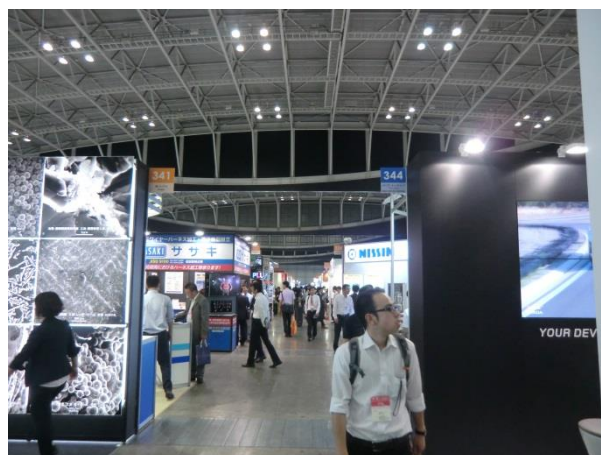
「人とくるまのテクノロジー展 2017 横浜」

出展報告書

本展示会は、公益社団法人自動車技術会の2017春季大会の中で開催される展示会。1992年に始まり、自動車業界の第一線で活躍する技術者・研究者のための専門展である。

今年は自動車技術会の創立70周年の節目の年で「社会が変わる、技術が変わる、くるまが変わる」をテーマに、大手自動車メーカー他、金属加工、電子部品、樹脂部品分野の企業の最新技術が展示されていた。今年度、当協会は単独出展した。

会場風景



業務報告書

1 展示会概要

会 期：2017 年 5 月 24 日（水）～26 日（金）10:00～18:00

会 場：パシフィコ横浜 展示ホール

主 催：公益社団法人自動車技術会

協 賛：板硝子協会、（一社）軽金属学会、（一社）潤滑油協会、（公社）石油学会、石油連盟（一社）日本アルミニウム協会、（一社）日本機械学会、（公社）日本工学会、（公社）日本材料学会、（一社）日本自動車会議所、（一社）日本自動車機械器具工業会、（一社）日本自動車機械工具協会、（一財）日本自動車研究所、（一社）日本自動車工業会、（一社）日本自動車車体工業会、（一社）日本自動車タイヤ協会、（一社）日本自動車部品工業会、（公財）日本自動車輸送技術協会、（一社）日本鉄鋼協会、日本内燃機関連合会、（一社）日本マグネシウム協会

出展者数：565 社（2016 年 538 社 2015 年 538 社 2014 年 491 社）

来場者数：90,687 名（2016 年 87,375 名 2015 年 86,939 名 2014 年 87,523 名）

	5 月 24 日（水）	5 月 25 日（木）	5 月 26 日（金）	合計
来場者数	27,413 名	28,036 名	35,238 名	90,687 名

2 大田区産業振興協会ブースの成果

	5 月 24 日（水）		5 月 25 日（木）		5 月 26 日（金）		合計	
	名刺数	相談件数	名刺数	相談件数	名刺数	相談件数	名刺数	相談件数
大田区産業振興協会	35 枚	14 件	41 枚	25 件	45 枚	19 件	121 枚	58 件

3 所見

本展示会は、今回で 25 回となる。前年・前々年とも 87,000 名前後の来場者がある国内有数の展示会であり、本年度は、3 日間で 90,687 名が来場され、過去最高の集客力となった。

自動車業界の第一線で活躍する技術者・研究者のための専門展だけあり、自動車メーカーや自動運転技術に関するブースに人気が集まり当協会ブースは人の波が少なく感じた。

しかしながら、協会ブースの来場者に多かった声は、「自動運転技術を見に来たら大田区のブースを見つけ今日は図面を持ってきていないが、試作品を作ってくれる企業や加工のできる企業を紹介して欲しい」、や「大田区の企業とビジネスマッチングがしたい」という区内企業への技術を求めるものであった。

大田区の得意分野である金属加工や試作に対する相談が多く、来場した自動車メーカー、大手メーカーや研究開発部員、技術者、営業マン、産業振興センター等お話ししたところ、横浜の地でも区内の町工場の技術力こそが日本の産業を支える底力があることを改めて実感することが出来た。

業務報告書

本展示会は、非常に中身の濃い内容であり、自動車関連部品の相談案件が多く、いかにこれまで区内企業が自動車産業を支えてきたことがよくわかった。また、車は従来の延長ではない新たな方向へ進化しており、区内企業の技術革新への役割が期待される。

以上

業務報告書

試作市場^{いちば}2017 & 微細・精密加工技術展 2017

「第8回試作市場 2017」

出展報告書

「第8回試作市場 2017」は、当協会が事務所を構える大田区産業プラザ（PiO）を会場に、製品開発の出発点「試作」に焦点を絞った専門展として開催され、切削や板金などの機械加工分野の技術が中心に展示されていた。今年度も昨年同様、当協会の単独出展した。

会場風景



業務報告書

1 展示会概要

会 期：2017 年 4 月 27 日（木）～28 日（金）10:00～17:00（最終日は 16：00）

会 場：大田区産業プラザ PiO 大展示ホール

主 催：日刊工業新聞社

後 援：経済産業省

協 賛：公益財団法人大田区産業振興協会

併 催：微細・精密加工技術展 2016

出展者数：81 社(2016 年 78 社 2015 年 75 社 2014 年 88 社) *併催を含む

来場者数：2,799 名(2016 年 2,711 名 2015 年 2,732 名 2014 年 3,173 名)

*併催を含む

	4 月 27 日（木）	4 月 28 日（金）	合計
来場者数	1,220 名	1,579 名	2,799 名

2 大田区産業振興協会ブースの成果

	4 月 27 日（木）		4 月 28 日（金）		合計	
	名刺数	相談件数	名刺数	相談件数	名刺数	相談件数
大田区産業 振興協会	61 枚	32 件	51 枚	28 件	112 枚	60 件

3 所見

本展示会は、今回で第 8 回となる。入場者数が 2,799 名と、東京ビッグサイトやパシフィコ横浜等で開催される大規模な展示会に比べ、10 分の 1 程度の規模であるが、具体的な案件を持って来場されている方が多く、各ブースをじっくり見て回っていたように思われる。

また、本展示会は全国の企業が出展しており、大田区からは今回当協会以外に 5 社が一般参加で出展しているのみであるにもかかわらず、大田区産業プラザ(PiO)で開催されている為、協会ブースでの来場者に多かった声は、もっと区内企業が出展している展示会だと思い、今後の相談間口を広げるために来場したや実際に図面を持ってきて今すぐにでも加工のできる企業を紹介して欲しいという区内企業への技術を求めるものであった。

来場した大手メーカーや研究開発部員、技術者、営業マン、産業振興センター等お話ししたところ、区内の町工場こそが日本の産業を支える底力があることを実感することが出来た。

以上